検定農家への情報提供

（増刊）牛群検定通信 No.１１８

令和２年１１月

家畜改良事業団
T03-5621-8921

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

１　**全酪新報　１１月１日号　全国酪農協会**
牛群検定ワンポイントレッスンその８９　分娩時月齢　低産次で対応を
分娩時月齢の繁殖成績としての活用法を紹介

２　**ＬＩＡＪニュース９月号　（一社）家畜改良事業団**
新しい牛群検定成績表について（その６８）いろいろな乳量①
検定成績表の基本に立ち返り、いろいろな乳量の見方を解説します。

検定成績表見方　検索

検定成績表（個体検定日成績）

牛コード	分娩 年月日	産次	※1 産子性別 (歳－月)	難易	搾乳又は乾乳日 ※2	乳数	今 1回	2
7713	200713	1	♀	3	17		13.4	12
7708	200629	1	♂	1	31		18.4	16
7525	200628	4	♀	1	32			
7705	200323	1	♀	1	129			9
9178	200317	10	♂	1	135			5
7228	200307	8	♀	1	145			3
7221	200224	7	♀	1	157			9
7702	200220	1	死産	1	16.			
7231	200110	8	死産	1	202			7
7701	200102	1	死産	1	210		16.2	14
7669	191219	1	♀	1	224		9.0	8
7703	191219	1	♀	2	224		11.8	10

分娩順

冬季の分娩管理にご注意を！

左図は検定成績の2枚目にある個体検定日成績です。成績表上での牛の並びは分娩順（搾乳日数順）となります。言い方を変えると、分娩した季節の順番とも言えます。

このような見方で左図の農家例を見ると、昨年の1月2月ごろの冬季の分娩に「死産」が多いことがわかります。分娩時の難易は1（自然分娩）です。

冬季に自然分娩で死産という場合に多い事例は、朝の搾乳前に牛舎を見廻ったら、母牛のわきで、子牛が死んでいたというパターンです。自然分娩なので、生まれた後に寒さで凍死したのか、本当に死産だったのかはわかりません。しかし、この場合、牛群検定では「死産、自然分娩」と報告されることが多いものです。

皆さんも検定成績で昨年の冬季の分娩を見てください。もし、このように冬季の死産が多い場合は、今年の冬季の自然分娩は中止して、やはり分娩立会を行う必要があります。

お試し検定にご参加下さい

これから牛群検定に参加しようと考えている農家のみなさんに朗報です。検定にかかる費用を無料とする乳用牛改良対策事業（通称：お試し検定）をご利用下さい。この事業は牛群検定の普及拡大を目的に、家畜改良事業団が実施するもので、牛群検定の6カ月間の検定経費を補助します。詳しくは検定組合にお問い合わせ下さい。

http://liaj.lin.gr.jp/japanese/kentei/kentei_info.html

牛群検定！点検シート（その３２　分娩時月齢）

お手許の検定成績を使いながら牛群管理の点検を行います。極簡単なものなので、これを機会に検定員といっしょに確認を行いましょう！今回は、分娩時月齢を使った繁殖チェックです。

農家コード　　氏名

・検定成績表の２枚目を確認しましょう！

１）下図の矢印①は、３産での分娩時は５歳９月齢（６９月齢）です。下図の度数分布で示された３産の平均 52.9 月齢や中央値 52 月齢と比べて高齢です。このような牛が皆さんの成績表にもいませんか？

Ｙｅｓ　　Ｎｏ

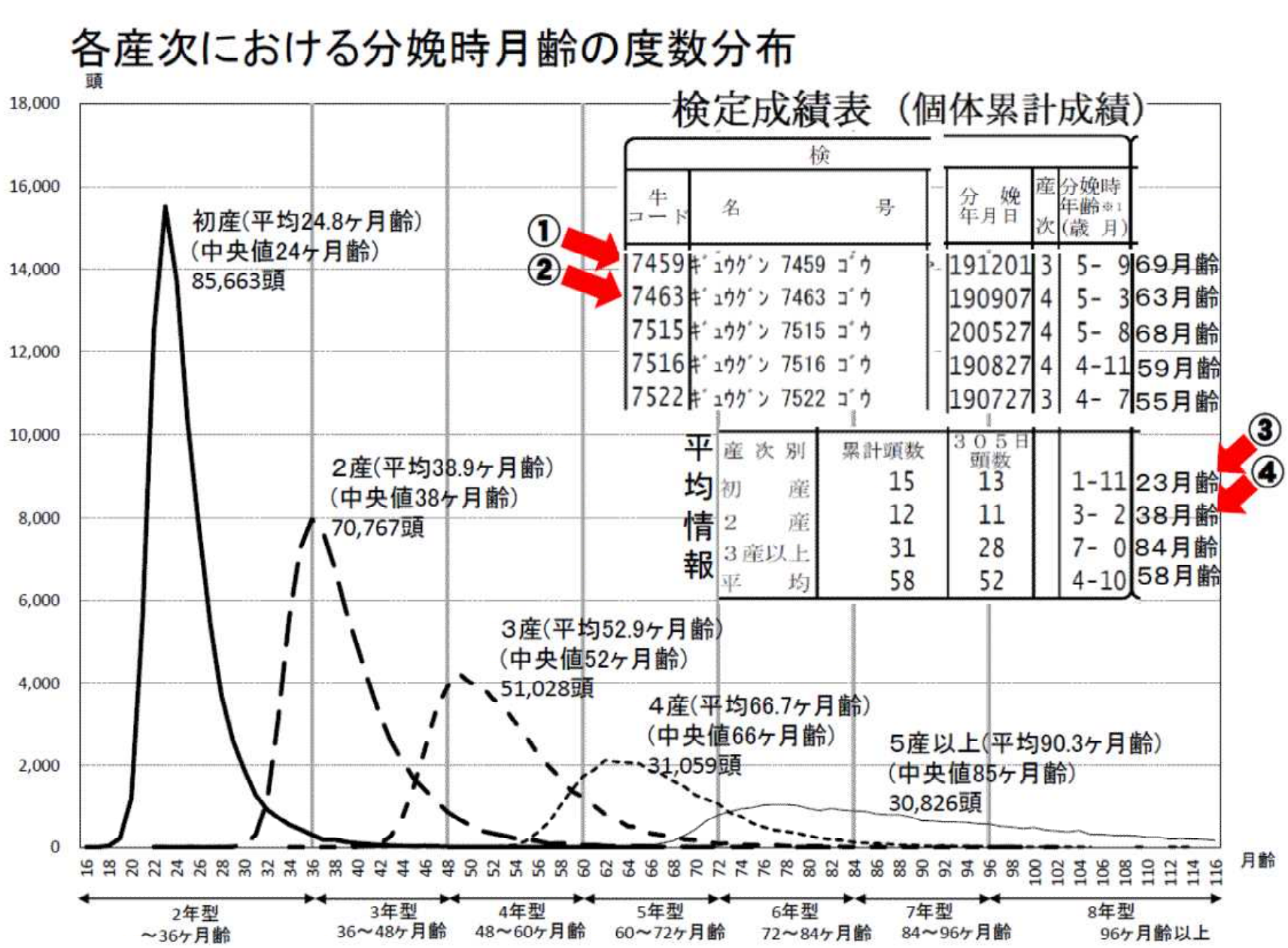
→Yes　繁殖が順調ではないことを示します。(矢印②は、63月齢で4産なので良い事例です)

２）成績表の平均情報で矢印③④のように初産２産の分娩時月齢が下図の度数分布の平均や中央値と比べて同様な値ですか？

Ｙｅｓ　　Ｎｏ

→No　授精技術だけでなく哺育、育成、初産牛の管理に課題があります。

分娩時月齢

分娩時月齢は一番厳しい見方をする繁殖成績です。下図の度数分布で示された平均や中央値までに各産次を終えなくてはなりません。発育不良などで初産が遅れてしまえば、その後の2産3産で取り返すことは困難になるという厳しいものです。

本例の矢印①のように事実を確認することは大切ですが、この牛の分娩時月齢を取り戻すことはできません。この繁殖成績のポイントは、各個体に一喜一憂するのではなく、矢印③④のようにベースとなる初産2産の平均での分娩時月齢が適切な値になるように改善することが肝要です。